

## 社会政策学会第 31 期（2010-2012 年期）幹事会 議事録

1. 次期幹事会準備会 .....	2
社会政策学会 第 1 回次期幹事会準備会 .....	2
社会政策学会 第 2 回次期幹事会準備会 .....	3
2. 幹事会議事録 .....	5
社会政策学会 第 1 回幹事会議事録 .....	5
社会政策学会 第 2 回幹事会議事録 .....	8
社会政策学会 第 3 回幹事会議事録 .....	11
社会政策学会 第 4 回幹事会 議事録.....	12
社会政策学会 第 5 回幹事会 議事録.....	16
社会政策学会 第 6 回幹事会 議事録.....	19
社会政策学会 第 7 回幹事会 議事録.....	20
社会政策学会 第 8 回幹事会 議事録.....	24
社会政策学会 第 9 回幹事会 議事録.....	28
社会政策学会 第 10 回幹事会 議事録.....	30
社会政策学会 第 11 回幹事会 議事録.....	32
社会政策学会 第 12 回幹事会 議事録.....	34

## 1. 次期幹事会準備会

### 社会政策学会 第 1 回次期幹事会準備会

- (1) 名称: 社会政策学会第 1 回次期幹事会準備会
- (2) 日時: 2010 年 2 月 14 日(日) 16 時 30 分～17 時 20 分
- (3) 場所: 東京大学経済学研究科棟第 3 共同研究室
- (4) 出席: 石井、禹、埋橋、小笠原、佐口、菅沼、武川、田中、所、久本、矢野(出席 11 名)  
欠席: 遠藤、大沢、都留、野村、布川  
オブザーバー: 阿部
- (5) 議題

#### 1. 次期代表幹事の選出について

現代表幹事から、会則第 16 条にもとづく次期幹事会準備会の開催趣旨が説明されたのち、次期幹事がそれぞれ自己紹介を行なった。

そして代表幹事の議長の下で議事に入った。まず、次期代表幹事の選出方法について意見を求めたが出席者から意見がなかったため、議長より立候補および推薦により候補者を選び、そのなかから選出することが提案され、了承された。

これを受けて立候補を募ったが、立候補する者がなかったため、推薦を求めたところ、次期幹事から久本憲夫会員を推薦するとの発言があった。ほかに推薦者がなく、久本会員も了解したため、次期代表幹事の候補者とした。

次いで、議長が久本候補を次期代表幹事に選出することについて諮り、異議なく承認された。

#### 2. その他

次期学会本部の事務局体制等について意見交換を行なった。

以上

## 社会政策学会 第 2 回次期幹事会準備会

- (1) 名称: 社会政策学会第 2 回次期幹事会準備会
- (2) 日時: 2010 年 5 月 29 日(土) 14 時 00 分～15 時 30 分
- (3) 場所: 立教大学池袋キャンパス 5 号館 1 階第 2 会議室
- (4) 出席: 石井、禹、笹島、佐藤、菅沼、所、久本、布川、矢野(出席 9 名)  
欠席: 猪飼、居神、埋橋、遠藤、王、大沢、小笠原、佐口、関口、武川、田中、都留、長井、野村  
オブザーバー: 林(事務局)

### (5) 議題

#### 1. 次期幹事の自己紹介

出席した次期選出幹事、次期推薦幹事、次期事務局(オブザーバー)が自己紹介を行い、次期幹事の人員について確認を行い、下記のとおり了承された。

##### 選出幹事

九州・中四国ブロック

石井まこと、都留民子

関西・北陸・東海ブロック

埋橋孝文、所道彦、久本憲夫、布川日佐史

関東甲信越ブロック

禹宗杭、遠藤公嗣、大沢真理、佐口和郎、菅沼隆、武川正吾、田中洋子、矢野聡

東北・北海道ブロック

小笠原浩一、野村正實

##### 推薦幹事

猪飼周平、居神浩、王文亮、笹島芳雄、佐藤卓利、関口定一、長井偉訓、未定

##### 事務局

林祐司(オブザーバー)

なお、久本次期代表幹事より、駒澤大学が 2012 年春期大会の開催校を引き受けて頂けそうであることから、残る 1 名の推薦幹事を駒澤大学より出して頂けるよう、調整中であるという報告があった。

#### 2. 次期幹事会体制について

次期幹事会の体制について確認を行い、学会誌編集委員会、春季大会企画委員会、秋季大会企画委員会、広報委員会、国際交流委員会の委員長・副委員長、社会政策学会関連学会協議会の協議員・参与協議員、日本経済学会連合の評議員・英文年報編集委員、会計監査について了承された。

#### 3. 幹事会の開催頻度と場所について

幹事会の開催が従来年間 6 回程度であったのを原則年間 4 回としたいという提案が次期代表幹事よりなされた。審議の結果、年間 5 回を目指し(大会の時はまとめて一度を想定)、必要があれば臨時的に

数回開催することが了承された。

本年度は春季大会の開催が通例に比べて一月遅れるため、次期幹事会が発足する以前に委員会等の準備を可能なかぎり進め、次期幹事会が発足してのち速やかに実務を開始することが次期幹事より提案され、了承された。

なお次期代表幹事より、次期幹事会を少なくとも一度、京都大学で開催したいという意向が示され、了承された。

#### 4. その他

菅沼次期幹事より広報委員会の課題について報告があり、メール転送サービス、ホームページ管理、ニューズレター編集発行について意見交換を行った。

##### a. メール転送サービス

メール転送サービスは、メールアドレスのセキュリティ管理、膨大な宛先不明・転送メール、依頼者とのやりとり、メール形式の整理などの問題を抱えており、改革の必要があることについて報告があり、メール転送サービスは会員多数の研究所に移管することを模索したいという意向が示された。意見交換の結果、メール転送サービスで現在行っている最新研究会情報の提供はブログに一本化し(<http://d.hatenablog.com/entry/2017/03/28/1493491000>)、RSS フィードによる更新情報の配信を会員に周知する方向で改革を進める方向でいくことが確認された。

なお、学会事務関連の情報(大会報告の募集など)のメールによる周知については継続審議することになった。

##### b. ホームページ管理

ホームページ管理は引き続き広報委員会の責任のもと管理することが確認された。管理負担を軽減するために院生アルバイトを活用することが提案され、その方向で改革を進めていくことが確認された。また、国際交流委員会より、国際交流委員会と広報委員会が連絡を密にし、国際交流委員会が作成した英文・中文・繁体・ハンガルのコンテンツをホームページにアップロードすることが提案された。

##### c. ニューズレター編集発行

ニューズレターは、学会事務局と広報委員会の双方から執筆者に連絡がなされている現状が示された。意見交換の結果、代表幹事との連絡や代表幹事による確認が必要であることから、学会事務局がニューズレターの編集・発行を行うことが合理的であることで一致をみた。現在、ニューズレターは広報委員会の所管となっているため、事務局担当者が広報委員を兼務し、ニューズレターの編集・発行を行うことが確認された。

以上

## 2. 幹事会

### 社会政策学会 第 1 回幹事会議事録

(1) 名称: 社会政策学会 2010-12 年期第 1 回幹事会

(2) 日時: 2010 年 7 月 25 日(日) 13 時 30 分～17 時 00 分

(3) 場所: 立教大学池袋キャンパス 太刀川記念館 1 階第 1・2 会議室

(4) 出席: 石井、菅沼、禹、布川、矢野、所、佐藤、笹島、猪飼、居神、遠藤、佐口、関口、田中、長井、鹿島

欠席: 武川、王、小笠原、野村、大沢、都留、埋橋

オブザーバー: 林(事務局)

#### (5) 議題

##### 1. 会員の入会・退会

10 名の入会申請があり、了承された。

##### 2. 第 120 回(2010 年春期)(早稲田大学)大会の総括

第 120 回大会開催校の鈴木元幹事から、6 月 19・20 日に早稲田大学で開催された第 120 回大会について、大会参加者数、全体の収支見込み等の総括があった。また、プログラムに関する当番校の役割を増してはどうかという意見が表明された(鈴木元幹事は欠席したため、久本代表幹事が文書を代読した)。

また前春季大会企画委員会の佐口幹事より、第 120 回大会では、プログラム印刷後に研究発表を辞退した者が 2 名出たことが報告された。意見交換の結果、研究発表の辞退者が院生であるときは、指導教員を通じて当該院生に注意を喚起することになった。

##### 3. 春季大会企画委員会報告

春季大会企画委員会の布川幹事から、第 122 回大会では「変化する教育訓練とキャリア形成」を共通論題のテーマに据えることが提案され、了承された。そして、どのような内容の報告があるのが望ましいのかということや、どのような報告者が望ましいのかということについて意見が交換された。

##### 4. 秋季大会企画委員会報告

秋季大会企画委員会の田中幹事と石井幹事から下記の提案があり、意見交換を行った。

秋季大会企画委員会は、幹事会の交代時期と秋期大会開催の時期があわないことから、変則的な任期交代制度をとっており、組織運営に弊害が起きている。引き継ぎを円滑にするため、幹事の交代年度は継続性を重視し、前委員会が実質的に共通論題を引き続いて担当し、新委員会はプログラムの作成等の事務的な作業を担当することが提案され、了承された。

秋季大会企画委員会が秋季大会でとりあげる書評を学会誌編集委員会に連絡することにより、編集委員会が独自の書評を企画できるよう連携することが提案され、了承された。また、学会賞の受賞作品

を学会賞発表直後の秋季大会において書評にとりあげることを目指して、受賞作品が発表される前に受賞作品を把握することが提案された。しかし、この点については、受賞作品発表以前の秘密の保持を優先するために見送ることになった。

秋季大会企画委員会より幹事会委嘱委員について提案があり、了承された。

秋季大会企画委員会より10月30・31日に愛媛大学で開催される第121回大会の準備状況について報告があった。

自由論題の応募が35件、テーマ別分科会の応募が9セッション、書評分科会が2セッションと予想を上回る応募があったことが報告された。応募をもとに作成したプログラム案が秋季大会企画委員会より提案され、了承された。

なお、2大会連続して研究発表を行う報告者には、発表内容がどのように異なるのかを確認することになった。

また、第121回大会では自由論題において、報告者が複数いる報告に非会員が含まれる場合がある(登壇者は会員である)。次回の大会から自由論題では、登壇しない報告者を含め、すべての報告者が学会員である場合のみ、報告を採択することが確認された。

#### 5. 第121回(2010年秋期)(愛媛大学)大会実行委員会報告

第121回大会実行委員会の長井幹事から、第121回大会の準備は順調に進んでいるとの報告があった。

#### 6. 第122回(2011年春季)(明治学院大学)大会実行委員会報告

第122回大会実行委員会の笹島幹事より、2011年春に明治学院大学で開催される予定の第122回大会の準備状況について報告があった。

#### 7. 編集委員会報告

編集委員会の禹幹事より編集委員会の構成と学会誌の刊行スケジュールについて報告があった。

年間3号を発刊する現体制では、特集企画で大会共通論題を扱えない号が出る(直近では3巻2号)。すでに周知されているとおり、専門部会から特集企画を提案してもらい、編集委員会での集約・選定、幹事会での確認を経て、小特集として学会誌に掲載することになった。

#### 8. 広報委員会報告

広報委員会の猪飼幹事と事務局より以下の提案があり、意見交換を行った。

まず、広報委員会より、業務の継続に必要であることと今後の委員の半数改選を目指すことから、一部委員の3選を認めるよう提案があり、了承された。

広報委員会と事務局から、学会からの事務連絡メールをワールドプランニングに委託することが提案され、原案どおり了承された。

事務局よりニューズレターの目次と発行スケジュールについて提案があり、意見交換の結果、目次とス

スケジュールに若干の修正を施した上で、原案が了承された。

#### 9. 社会政策学会関連協議会報告

社会政策学会関連協議会協議員の遠藤幹事より、社会政策学会関連協議会の沿革について説明があった。現在社会政策学会からは協議員を1名派遣しているが、社会政策学会からは2名の派遣が可能であるので、適当な時期に2名を派遣する体制にしたいことが提案され、了承された。

#### 10. 国際交流委員会報告

国際交流委員会の矢野幹事より、国際交流旅費を使った学会企画の募集と決定について、国際交流旅費の申請手続きに関する申し合わせについて説明があった。また、国際交流委員会企画・共催、後援による講演会等の開催について説明があった。

東アジア社会政策研究ネットワークの機関同士の交流関係の締結について提案があった。意見交換の結果、交流団体の性格や交流事項について検討を行うことになった。

また英語、中文、繁体文、ハンゲルのホームページを充実させるにあたり、必要となる翻訳の経費を学会経費から拠出することが提案され、了承された。

#### 11. 専門部会の改称について

少子高齢部会より部会名の改称について提案があったが、部会の特性が明瞭な名称に改称するよう、世話人に提案することになった。

以上

## 社会政策学会 第 2 回幹事会議事録

(1)名称:社会政策学会 2010-2012 年期第 2 回幹事会

(2)日時:2010.10.29(金) 15:00~18:30

(3)場所:愛媛大学・愛大ミュージズ3F 会議室

(4)出席:菅沼、禹、布川、矢野、所、佐藤、笹島、遠藤、佐口、田中、小笠原、都留、久本、オブザーバー:林(事務局)

欠席:関口、石井、王、鹿嶋、武川、猪飼、居神、埋橋、野村、大沢

### (5)議題

#### 1. 会員の入会・退会

8名の入会が承認された。

#### 2. 第 120 回大会会計報告

早稲田大学の鈴木元幹事が作成した第 120 回大会会計報告の文書を事務局が代読した。

代表幹事より、今後、学会本部より支給する学会開催費 120 万円(100 万円+追加分 20 万円)について、支出が 120 万円を下回った場合、開催校からできれば 100 万円を超える部分について学会本部に返金してもらい、100 万円の範囲内であれば、残額は開催校で処理するように取り扱うことが提案され、了承された。

#### 3. 春季大会企画委員会報告(共通論題の準備状況、分科会・自由論題の募集手続き)

春季大会企画委員会委員長の布川幹事より、第 122 回大会共通論題「変化する教育訓練とキャリア形成」の準備状況について、司会・報告者の確定を進めているところであるという報告があった。また、学会開催日は開催校の笹島幹事と相談し、現在のところ、共通論題の司会・報告候補者の都合がよい 5 月 21 日・22 日を考えていることが報告された。

テーマ別分科会・自由論題の報告募集は第 121 回大会の終了後速やかに開始すること、その締め切りについて 2011 年 1 月 21 日を予定していること、プログラム作成は 1 月 29 日を予定していること、2 月末にプログラム原稿を開催校に引き渡すことを予定していることが報告され、了承された。

#### 4. 第 122 回大会実行委員会報告

第 122 回大会の準備状況について、開催校の笹島幹事から、大学で行われる補講、父母会、オープンキャンパスとの兼ね合いを考えながら、教室の確保を進めているとの報告があった。

大会開催日について外部より問い合わせがあることから、開催日が決定され次第、ホームページ等で告知することになった。

#### 5. 編集委員会報告

編集委員会委員長の禹幹事から、下記の通りの報告があり、意見交換がなされた。

『社会政策』2 巻 2 号の刊行が遅れていることが報告され、2010 年 12 月に発行するための善後策に

ついて意見交換がなされた。

意見交換の結果、今後、雑誌原稿の入稿期限を過ぎても、著者より原稿が提出されない場合は、編集委員長より幹事会に遅延の発生を報告し、編集委員長と著者の間で協議を行ったうえで、代表幹事が原稿の取り扱いについて総合的に判断することになった。また、共通論題報告をもとにした特集は、大会開催日までは企画委員会が責任を持ち、大会開催後は編集委員会が原稿を収集し、刊行までの作業に責任を持つことになった。

今後の刊行スケジュールについて、2巻3号を2011年2月、3巻1号を2011年5月、3巻2号を2011年8月、3巻3号を2011年12月とすることが提案され、了承された。

書評については毎号の掲載を目指すことが提案され、了承された。また、書評分科会開催後に報告者に執筆をお願いし、執筆され次第、雑誌に掲載していくことになった。さらに、秋季大会企画委員会が書評の候補作を決定したのち、編集委員会に通知することが確認された。なお、書評分科会のあり方について今後検討していく必要があることが確認された。

研究動向紹介は、レビュー論文、座談会、「回顧と展望」などがありうるが、後日行われる編集委員会ですずれの形式が望ましいかを審議し、その結果をもって直ちに編集委員会がその準備に取りかかることが提案され、了承された。

企画委員会と編集委員会が連名で大会開催直後に、テーマ別分科会担当者に特集テーマの企画提案を依頼することになった。ただし、雑誌には紙幅に限りがあるため、どのテーマを掲載するかは編集委員会において審議を行ったうえで、幹事会で報告したのちに決定されることが確認された。

その他に、3巻2号の特集テーマについて報告があり、特集タイトルについてさらに検討を加えることを条件に承認された。

編集委員会副委員長の佐藤幹事から、査読の状況について報告があった。投稿本数が増加している一方、採択本数が増加していないことについて、若手の投稿が増加していることが背景にあるという説明があった。査読は若手を育てるために、改訂を促進するように行うという方針が確認された。また、中堅・ベテランからの投稿も奨励する必要があるということが提案された。

そのほかに、学会誌の Cinii 登録や電子ジャーナル化について、出版社と協議することになった。

代表幹事から、編集委員会の業務が大幅に増加しているため、増員を検討するなど、負担軽減をはかる必要があることが提案され、継続して議論していくことになった。

## 6. 国際交流委員会報告

国際交流委員会の矢野幹事より、韓国社会政策学会との交流について前向きに進めることが提案され、了承された。また、韓国以外の他の国の学会との学術交流について今後検討していくことになった。

代表幹事が外国向けの社会政策学会紹介記事を執筆し、ホームページに英語、中文、繁体、ハンブルで掲載することになった。

#### 7. 社会政策関連学会協議会

社会政策関連学会協議会の遠藤幹事より、「社会施策関連学会協議会メールニュース」を学会員に転送することが提案され、了承された。

2011年3月4日(金)に協議会主催で開催される「ジェンダーと社会政策——各学協会はどうとらえてきたか」における社会政策学会からの報告は、ジェンダー部会会員にお願いすることが提案され、了承された。

#### 8. 秋季大会企画委員会

秋季大会企画委員会の田中幹事から大会の実施状況について、台風接近に伴う問題等について説明があった。

#### 9. その他

代表幹事より、学会賞選考委員として新たに森建資会員、伍賀一道会員が新たに選出されたことが報告された(任期は2012年5月まで)。

事務局より、『会員名簿および会則等』の作業の進捗状況、ニューズレターの発行予定について説明があり、意見交換を行った。

以上

## 社会政策学会 第3回幹事会議事録

(1)名称:社会政策学会 2010-2012 年期第3回幹事会

(2)日時:2010.10.30(土) 11:45~12:30

(3)場所:愛媛大学・愛大ミューズ3F 会議室

(4)出席:菅沼、布川、矢野、所、笹島、遠藤、鹿嶋、佐口、小笠原、関口、武川、埋橋、久本、オブザーバー:高田、林(事務局)

欠席:石井、王、猪飼、居神、野村、大沢、禹、田中、佐藤、都留

### (5)議題

#### 1. 会員の入会・退会

2名の入会が承認された。

#### 2. 専門部会名称の変更について

少子高齢部会世話人の高田会員より、専門部会名称の変更について提案があり、高田会員と幹事との間で意見交換を行った結果、「雇用・社会保障の連携部会」と改称することについて、幹事会として了承した。

#### 3. 法人会員の 신설について

代表幹事より、シンクタンク等を対象として、法人会員制度を新設してはどうかと提案があった。幹事からは学会の発展につながる形であることが必要であること、法人会員の範囲が特定しにくいこと、法人会員の増加により会員数が増加したのち、何かの景気で会員数が減少した場合に学会財政の再整理が必要となること、投票権、ジャーナルへの投稿権をどうするかということなど様々な整理を行うべきであることが指摘され、今後継続して審議していくことになった。

#### 4. 国立情報学研究所のウェブサーバサービスの廃止について

国立情報学研究所のウェブサーバサービスが 2012 年3月をもって廃止されることになったことが事務局より報告された。意見交換の結果、代表幹事と編集委員会で対応について検討したうえで、次回の幹事会で対応について審議することになった。

以上

## 社会政策学会 第4回幹事会 議事録

(1) 名称: 社会政策学会第4回幹事会

(2) 日時: 2011.2.5(土) 14:00~16:30

(3) 場所: 京都大学法経総合研究棟8Fリフレッシュルーム

(4) 出席: 布川、矢野、所、佐藤、笹島、田中、鹿嶋、猪飼、居神、久本

オブザーバー: 林(事務局)

欠席: 菅沼、禹、遠藤、関口、石井、佐口、長井、都留、王、武川、埋橋、小笠原、野村、大沢

(5) 議題

### 1. 学会誌『社会政策』について

幹事会とミネルヴァ書房の梶谷氏との間で学会誌『社会政策』について意見交換を行った。

久本代表幹事から、学会としては、国立情報学研究所が提供するCiniiサービスへの登録は、論文検索を可能とすることにあわせて電子ジャーナル化を行い、雑誌が発刊されて2年が経過した後は、論文本体をPDFでダウンロードできるようにしたいという見解が示された。ミネルヴァ書房はこの件を持ち帰って社内で協議し、改めて学会と協議することになった。

そのほかに幹事から、学会として学会誌の販路を増やすために、学会大会において大学や地域の図書館で購入してもらえるように会員に改めて呼びかけることが提案された。また、雑誌の装丁に関して、幹事会とミネルヴァ書房との間で意見の交換を行った。

### 2. 入会・退会について

10名の入会が了承された。また、事務局より6名の退会があったことが報告された。また、多年度にわたる会費滞納者の退会について事務局より提案があり、了承された。

### 3. 2010年度秋季大会(第121回大会)会計報告

第121回大会実行委員会の長井幹事が作成した会計報告の文書が事務局により代読され、会計処理について原案どおり了承された。

### 4. 2011年度春季大会(第122回大会)企画委員会報告

春季大会企画委員会の布川幹事より、以下の報告があり、意見交換をおこなった。

共通論題「変化する教育訓練とキャリア形成」の準備状況について、①報告者・司会の確定、②第1回準備会での議論の状況(2010年12月19日)、③第2回準備会と第3回準備会の実施予定が報告された。

テーマ別分科会と自由論題の応募状況は、テーマ別分科会が9、自由論題が16であり、自由論題が昨年春26、一昨年春20であったことと比較するとやや減少していることが報告された。この点について幹事より、秋季大会の報告募集を延長したことが影響したのではないかという見解が出された。また、締め切りを過ぎた応募2件を不受理とし、2011年度秋季大会(第123回大会)以降に改めて応募するよう、応募者に通知したことが報告された。

第 122 回大会プログラムの概要案について、①自由論題、テーマ別分科会の配置、②共通論題の時間枠、③幹事会、各種委員会、専門部会の開催について報告があり、了承された。また、共通論題の要旨と報告の概要の確定は 2 月末を予定していることが報告された。

#### 5. 2011 年度春季大会(第 122 回大会)実行委員会報告

第 122 回大会実行委員会の笹島幹事より、大会開催の準備状況について、開催校である明治学院大学において実行委員会が組織されたことが報告された。

幹事より、過去の学会で行われた研究所紹介のブースを設置してはどうかという提案がなされ、その方向で進めることになった。

#### 6. 編集委員会報告

編集委員会の佐藤幹事より、以下の報告があり、意見交換をおこなった。

第 2 巻第 3 号(通巻 7 号)は 2 月刊行を目指して作業を進めていることが報告された。また、第 3 巻第 1 号(通巻 8 号)は 5 月刊行を予定しており、第 3 巻第 2 号(通巻 9 号)は、8 月刊行を予定していることが報告された。

小特集の論文は投稿論文と異なり査読つき論文としないことが編集委員会で合意されたことが報告された。その理由として、投稿論文と同様の査読が困難であること、あえて査読を強行することで査読のレベルが低下しかねないこと、厳しい査読が行われる投稿論文との間に不公平が生ずることがあげられた。この点について幹事会として了承された。

『社会政策』の誌面構成を多様化するために新たに設ける「研究レビュー」について、労働分野と社会保障・福祉分野で行うように進めており、専門部会の代表者に執筆者推薦を依頼したことが報告された。

投稿論文の投稿が 1 月末の締め切りまでに 12 本あったことが報告された。10 月末の締め切りでは 6 本であったが、大幅な増加は、第 121 回大会の自由論題報告者に編集委員会委員長と秋季大会企画委員会委員長の連名で『社会政策』への投稿を呼びかけたことが大きいのではないかという意見が編集委員会から出された。

また編集委員会から、投稿の増加傾向が今後も底堅く続いた場合、編集委員会の定員数を拡充するなど、編集体制の見直しが必要になるかもしれないという意見が出された。さらに投稿数の増加に伴い、字数オーバーや注の付け方など形式的な面で問題のある論文が増加していることが報告された。この点について幹事から、形式上の問題がある論文は門前払いとするのが望ましいという意見があった。

#### 7. 国際交流委員会報告

国際交流委員会の矢野幹事より、以下の報告があり、意見交換をおこなった。

国際交流委員会の金成垣委員を副委員長代行とすることが提案され、了承された。

社会政策学会と韓国社会政策学会との交流を進めるために、5 月 27 日にソウルで行われる韓国社会政策学会大会で調印を行いたいことが提案され、了承された。

実際の交流は日本・東アジア社会政策部会を中心に、年に2回、たとえば1回(春)は日本→韓国、1回(秋)は韓国→日本という形で往来しながら行い、若手を含めて広く報告を募集する方向で進めていることが提案された。

韓国社会政策学会の役員任期は1年であるが、社会政策学会の任期2年にあわせて研究交流は2年間に単位として行うように調整されていることが報告された。

国際交流経費を韓国社会政策学会との交流事業に充てることが提案され、了承された。

#### 8. 2011年度秋季大会(第123回大会)企画委員会報告

秋季大会企画委員会の田中幹事より、以下の報告があり、意見交換をおこなった。

2010年度秋季大会の報告者に、秋季大会企画委員会委員長と編集委員会委員長の連名で自由論題報告者に学会誌への投稿を呼びかけ、分科会コーディネーターに学会誌での小特集の企画提案を呼びかけたことにより、論文投稿と小特集提案が多数あったことが報告された。

開催校である京都大学の教室事情等にもとづき、開催日を2011年10月8日(土)・9日(日)とすることが報告された。また、初日に各種分科会を実施し、二日目に全日を使って共通論題を行うことが報告された。

愛媛大学で開かれた秋季大会企画委員会において、共通論題テーマを「健康のための社会政策」とすることで合意したことが報告された。また、①報告候補者から内諾を得て決定したこと、②大会前に報告準備会を数回行うことが報告された。幹事より、福祉に配慮したことをアピールしてはどうかなどの意見が出され、報告内容について意見交換が行われた。

新たな試みとして大会ポスターを作成することが提案され、大会ポスターの作成は試行的に行い、大会予算ではなく、本部予算を10万円程度充てることが了承された。

秋季大会企画委員会の引き継ぎを円滑に行うために、ネット上に固定のボックスを作り、パスワードを引き継ぐことにしたことが報告され、了承された。

#### 9. 2011年度秋季大会(第123回大会)実行委員会報告

第123回大会実行委員会の久本代表幹事より、以下の報告があった。

教室事情から、開催日を2011年10月8日(土)・9日(日)とすることが報告された。また、京大の教室利用料が高騰しており、大会運営の財政面を圧迫する可能性について報告された。

#### 10. 広報委員会報告

広報委員会の猪飼幹事より、以下の報告があった。

国立情報学研究所のウェブサイトサービスが2012年3月に停止することへの対応として、①民間サーバを使うこと、②独自ドメインを取得すること、③年間5～6万円程度の予算を考えていることが報告された。

## 11. その他

笹島幹事より、大学教員の定年年齢が近年低下していることに対応し、生涯会員制度、あるいは定年時に会費を一括して納める等の制度を新設してはどうかという提案があり、今後継続して検討することになった。

猪飼幹事より、amazon の『社会政策』の販売ページに「なかみ検索」を設けるようにミネルヴァ書房に提案してはどうかという意見が出され、Cinii登録とあわせてミネルヴァ書房と協議することになった。

事務局より、ニューズレターの目次と発刊スケジュールについて提案があり、了承された。

以上

## 社会政策学会 第5回幹事会 議事録

(1) 名称: 社会政策学会第5回幹事会

(2) 日時: 2011.5.20(金) 14:00~17:45

(3) 場所: 明治学院大学・へボン館 2階・7201室

(4) 出席: 布川、矢野、佐藤、田中、猪飼、禹、遠藤、長井、久本

オブザーバー: 林(事務局)

欠席: 武川、笹島、王、石井、鹿嶋、佐口、所、埋橋、小笠原、居神、菅沼、野村、大沢、関口、都留

(5) 議題

### 1. 会員の入会・退会

21名の入会が承認された。また、前回の幹事会から42名の退会があったことが事務局から報告された(多年にわたる会費未納者24名を含む)。

### 2. 総会について

5月21日(土)に開催される総会について議題の原案が久本代表幹事から提示され、原案どおり承認された。また2010年度活動報告、2010年度決算報告、2011年度活動方針、2011年度予算案について代表幹事より原案が提示された。原案に関する審議を行うなかで、ジャーナル化以前の学会誌を電子化し、国立情報学研究所が運営する論文情報ナビゲータ(Cinii)で誌面のPDFがダウンロードできるようにすることが提案された。これを受けて、本部経費予算に「学会誌の電子化事業費」として新たに50万円を計上することになった。

### 3. 春季大会企画委員会報告

春季大会企画委員会委員長の布川幹事から、第122回大会プログラムにおいて、一部のテーマ別分科会のコメンテーター・指定討論者の氏名が脱落し、学会ホームページで補足を行ったことが報告された。今後、同様のことが起こらぬよう、コーディネーター・指定討論者の欄を設けることになった。

5月21日(土)に開催される共通論題は報告者の確定が遅くなるなどしたが、準備のための事前研究会を3回開催したことが報告された。

第124回(2012年度春期)大会の共通論題テーマとして東日本大震災を取り上げるのがよいのではないかという問題提起があったので、その方向性で検討を進めたいということが提案され、了承された。

また編集委員会委員長の禹幹事から、今後は、共通論題の報告者だけでなく、座長にもあらかじめ、学会誌に論文を発表してもらうことを要請しておくことが提案され、了承された。

### 4. 秋季大会企画委員会報告

秋季大会企画委員会委員長の田中幹事から、第123回(2011年度秋期)大会では、共通論題テーマを「健康のための社会政策」として開催することになっており、報告者と企画委員で研究会を実施していることが報告された。

書評分科会は若手・中堅の力作を中心に、社会保障・社会福祉と海外の社会政策について設けるこ

とが報告された。

自由論題・テーマ別分科会の報告募集を5月15日(日)に学会ウェブサイトにて公開したこと、応募の締切りが6月13日(月)であることが報告された。

第123回大会から、大会ポスターを作ることが2月5日(土)に開催された幹事会で決まったが、費用見積もり等の打ち合わせが順調に進んでいることが報告された。またポスターは秋期大会企画委員会が作成し、開催校の京都大学が大会プログラムに同封して、会員に送ることになった。

## 5. 編集委員会

編集委員会副委員長の佐藤幹事から、2010年1月末からの論文投稿および審査の状況について報告があった。2007～2008年と比較すると、最近採択率が低下していることについて、1)編集委員と査読専門員の陣容にはほぼ変化がないこと、2)審査体制にも変化がないことの2点が説明された。直近では12本の投稿論文のうち5本が字数オーバーにより投稿受理に至らなかったことが報告され、論文の質そのものが落ちているのではないかと説明がなされた。最近、大学院生が投稿論文の執筆者の多くを占めるようになってきているが、査読は厳正に行うものの、大学院生には教育的な配慮のもと、即座にリジェクトするのではなく、可能な限り修正意見をつけて、改訂を促したいという説明がなされた。

禹幹事から、今後の発行スケジュール、研究レビュー著者の専門部会からの推薦状況について説明があった。研究レビューは、執筆が一巡した後、どうするかが問題になりうるという見解が表明された。また4巻2号の特集企画を立てる必要があるので、意見があれば伝えて欲しいという発言があった。

小特集は専門部会等の成果を公表するために成功しており、5月21日(土)・22日(日)に開催される第122回大会の成果を反映することを考えているという説明があった。第122回大会では、編集委員会の委員で手分けをしてテーマ別分科会に参加することにしているという報告があった。

小特集の企画提案が活発になされるようになったことに伴い、提案から掲載まで時間がかかるようになってきている。そこで今年度から、小特集の募集は締切りを設けて公募し、中身を検討して選別することを計画しているという報告があった。テーマ別分科会に編集委員が参加するのは選別のための基礎資料とする意味合いもあるという説明があった。

小特集の論文は、査読なしの論文として取り扱い、査読付き論文は投稿論文のみとすることを幹事会で改めて確認した。

書評は毎号掲載の実現に近づいており、書評分科会との連携のもと、今後も基本的に毎号書評を載せたいと報告があった。年4回刊行体制の実現は、投稿論文の今後の動向や編集委員会の体制の拡充が重要となることが説明され、引き続き幹事会で議論していくことになった。

## 6. 社会政策関連学会協議会

社会政策関連学会協議会副代表の遠藤幹事から、公開シンポジウム「社会サービスのユニバーサル・デザイン—医療・介護・居住の新たな政策課題」の紹介があった。

## 7. 国際交流委員会

国際交流委員会委員長の矢野幹事から、今期の目標として近隣諸外国との学術研究交流を進めてきたことが報告された。2011年5月27日(金)に韓国社会政策学会と締結する予定の「日本・韓国における研究交流の推進に関する協定書」の原案が提示され、一部修正された。

#### 8. 学会誌掲載論文のインターネット検索およびダウンロードについて

国立情報学研究所の Cinii にて、学会誌『社会政策』に掲載された論文を、公刊して2年が経過した後、PDF でダウンロードできるようにすることが代表幹事より提案され、了承された。また現在ミネルヴァ書房から刊行されている学会誌『社会政策』の将来像について意見交換を行い、今後も議論を継続していくことになった。

#### 9. 東日本大震災に対する学会の対応について

第123回(2011年度秋期)大会において、東日本大震災に関するテーマ別分科会を一つ設けることが代表幹事から提案され、了承された。また、第124回(2012年度春期)大会で東日本大震災を共通論題テーマとする方向性で検討していくことが改めて確認された。

被災した会員に対して会費免除を行うことと、被災により学会誌『社会政策』を失った会員に学会誌を再送付することが事務局から提案され、了承された。

#### 10. 会員制度について

2011年2月5日(土)の幹事会で大学教員の定年年齢引き下げ傾向を受けた生涯会員制度の検討が提案された。事務局から生涯会員制度や常勤職を離れた会員の会費割引制度を設けることで、学会財政がどのように推移するかを試算した資料が提出された。事務局から資料をもとに生涯会員制度を他学会と同程度の金額で設定した場合、学会財政が厳しい状況になりかねないことや、常勤職についていない若手会員の処遇をどうするかを合わせて考えるべきであるということが説明された。意見交換の結果、常勤職についていない若手会員の会費割引と合わせ、次回の幹事会で継続審議することになった。

#### 11. その他

仁田道夫会員(国士舘大学)から労働問題研究会の会費残金を社会政策学会に寄付して下さるといふ申し出があったことが代表幹事から報告され、寄付をいただくことになった。

代表幹事から選挙管理委員会の人選を進めていることについて説明があり、委員の決定は代表幹事に一任することになった。

以上

## 社会政策学会 第6回幹事会 議事録

(1) 名称: 社会政策学会第6回幹事会

(2) 日時: 2011.5.20(金) 14:00~17:45

(3) 場所: 明治学院大学・ヘボン館2階・7201室

(4) 出席: 所、田中、鹿島、関口、埋橋、矢野、遠藤、久本  
オブザーバー、森(学会賞選考委員会)、林(事務局)

欠席: 布川、佐藤、猪飼、禹、長井、武川、笹島、王、佐口、小笠原、居神、菅沼、野村、大沢、石井、都留

(5) 議題:

### 1. 会員の入会について

7名の会員の入会が承認された。

### 2. 学会賞選考委員会報告

学会賞受賞作品について、学会賞選考委員会委員長の森会員から報告があり、原案どおり承認された。

### 3. その他

事務局からニューズレターの発行スケジュールについて説明があり、原案どおり承認された。

代表幹事から、第126回(2013年度春期)大会と第128回(2014年度秋期)大会の開催校をどこにするか、考えて欲しいとの依頼があった。

以上

## 社会政策学会 第7回幹事会 議事録

(1) 名称: 社会政策学会第7回幹事会

(2) 日時: 2011.7.2(土) 13:00~16:45

(3) 場所: 京都大学・法経済学部東館・1F101 演習室

出席: 居神 石井 禹 小笠原 鹿嶋 笹島 佐藤 武川 田中 所 久本 布川 矢野

オブザーバー: 林(事務局)

欠席: 猪飼 埋橋 遠藤 王 大沢 佐口 菅沼 関口 都留 長井 野村

(5) 議題:

### 1. 会員の入会について

15名の入会が承認された。

### 2. 第122回(2011年度春季)大会実行委員会報告

第122回大会が開催された明治学院大学の笹島幹事から、大会会計の処理について資料に基づき説明があり、会計処理を原案どおり行うことが了承された。

### 3. 編集委員会報告

編集委員長の禹幹事から、第3巻第2号の刊行予定について説明があった。

編集副委員長の佐藤幹事から、投稿論文の審査状況について説明があった。論文が投稿されてから掲載されるまでの期間が他の学会の雑誌に比べると長い印象がある。2010年度の査読が長引いたことの一因に、投稿論文の査読を担当する査読専門委員がなかなか決まらないという問題があったが、久本代表幹事と編集委員長の連名で「査読専門委員へのご協力をお願い」を送付して以来、査読者の決定が円滑に進むようになったことが報告された。査読者の選定を迅速に進める等して、できる限り掲載までの期間を短くするように取組むことが確認された。

禹幹事から、小特集の応募が2件あったことが報告され、幹事会として掲載を了承した。第3巻第3号以降の学会誌の発刊スケジュールについて説明があった。また、編集体制を拡充するために、編集委員定数を12名から20名に増員することが提案され、了承された。

兎幹事から、学会倫理綱領で禁止している二重投稿の定義について問題提起があった。幹事の間で意見交換を行い、長期的な視点から学会としての方針を具体化していくことになった。

### 4. 広報委員会報告

学会ウェブサイトのサーバーの変更に合わせて、学会ウェブサイトのデザインを一新することが広報委員会で検討されており、デザイン刷新に向けて30万円の予算増額が要求された。ウェブサイトのデザイン変更は、後ほど学会がコンテンツの追加を自在にできるように行えるデザイナーが見つかったときに実施する方向で検討が進められていることが説明された(広報委員長の猪飼幹事が欠席のため、事務局が代わりに説明)。幹事の間で意見交換し、予算増額を了承した。

## 5. 秋季大会企画委員会報告

秋季大会企画委員長の田中幹事と副委員長の石井幹事から京都大学で開かれる第 123 回(2011 年度秋期)大会について報告があった。自由論題は 39 報告(3 報告をまとめて 13 セッション)、テーマ別分科会は 10 セッションの応募があり、書評分科会 2 セッションと合わせて、25 セッションが開催される予定であることが報告された。テーマ別分科会について、東日本大震災に関する分科会について説明があった。また、自由論題の座長を決定した。さらに、共通論題の準備会に関する報告があった。

7月中旬にプログラム原稿の確定版を作成し、開催校である京大に引き渡す予定であることが報告された。大会ポスターに加えて、チラシも作ったことが報告され、プログラムとともに会員に発送する予定であることが説明された。また、ポスターやチラシを京大近辺で配布し、大会の開催について宣伝を行うことを計画していることが報告された。

編集委員長の禹幹事から、学会誌への報告者論文や座長論文の掲載について確認があった。この確認に対して、多忙を極める報告者を除いて入稿されるのではないかという説明があった。

## 6. 第 123 回(2011 年度秋期)大会実行委員会報告

第 123 回大会開催校の久本代表幹事から、大会開催の準備状況について報告があった。

## 7. 春期大会企画委員会報告

春季大会企画委員会の布川幹事から、第 124 回(2012 年度春期)大会の共通論題では震災の問題と原発事故の問題を扱う方向で検討を進めていることが報告された。第 123 回大会において開催されるテーマ別分科会の成果を踏まえて 7 月 16 日に議論することになっており、8 月には内容や人選を固めたいという説明があった。なお、震災と原発を一回の共通論題で扱えるかが検討されており、場合によっては共通論題を一日 2 回実施することも視野に入っていることが説明された。

幹事からは、復興の議論はタイミング的に難しいのではないかと、東日本大震災だけでなく阪神大震災やそのほかの震災も扱うことで手堅い研究報告が可能なのではないかと、国際的な議論を視野に入れるのがよいのではないかと意見があった。布川幹事からは、現場の実態を踏まえつつ、しっかりした分析に基づく報告がなされるように配慮したいという認識が示された。

## 8. 国際交流委員会報告

国際交流委員長の矢野幹事から、日本・東アジア社会政策部会が引き続き、韓国社会政策学会と結んだ交流協定の窓口を担当しており、部会と国際交流委員会の連携のもと交流を進めていることが報告された。

また、中国についても前向きに国際交流協定の締結に向けて検討を進めていきたいという説明があった。

## 9. 学会賞選考委員の委嘱について

学会賞選考委員の人選について、従来どおり委員が専門とする分野と委員のジェンダー等に配慮し、

バランスよく進めていくことになった。

#### 10. 選挙管理委員会の人件費の支出について

2011年10月7日(金)に行われる役員選挙の開票作業について、従来どおり大会開催のためのアルバイトを活用することを確認した。

#### 11. 学会誌の今後の扱いについて

代表幹事から、学会誌の発刊について、紙媒体を従来どおり書店流通させる形式、書店流通をとりやめ学会員だけの配布とした上で発刊当初よりオンラインでPDFを公開する形式、紙媒体の発刊はとりやめて完全なオンラインジャーナルとする形式など様々なあり方が考えられるという問題提起がなされ、幹事の間で意見交換がなされた。

幹事からは、書店流通をとりやめることで編集は現状より小回りがきくようになるのではないかと、質の高い編集実務を任せられるところはあるのか、図版の色刷りも可能となるのではないかと、紙媒体を完全に無くして図書館に所蔵されなくなるのは問題があるのではないかと、といった意見が出された。

学会誌については投稿論文の査読の問題など他にも問題があるので、一度、ニューズレターを通じて学会員からパブリックコメントを収集することが提案され、了承された。

#### 12. 事務局報告

事務局から、下記の事項について報告があり、議論を行った。

##### 1) 旅費規程について

旅費支給に関する試算の結果が報告され、幹事の間で意見交換を行った。旅費を全額支給すると、どの程度の支給額になるのか想定できず、総支給額が大幅に増加する可能性がある。そのため、旅費予算と旅費執行額に現在差があることから、支給率をあげて両者を合わせる方向で調整することになった。

##### 2) 規程の改正について

会則、広報委員会規程、会費規程、国際交流旅費規程、社会政策学会誌編集委員会規程、社会政策学会誌編集規程の改正案が提案された。一部、文言の修正を行った上で、原案が承認された。2011年9月発刊予定のニューズレターで改正案を会員に周知し、第123回(2011年度秋期)大会で開かれる臨時総会で審議する運びとなった。

##### 3) 学会誌の電子化について

学会誌の電子化に関する作業の進行について報告があった。

##### 4) 大会報告者の原稿の取り扱いについて

現在学会大会では、自由論題で100部、テーマ別分科会で150部、報告者がフルペーパーを印刷して大会開催校に送付している。これを他学会に倣って報告論集とした場合にどうなるのかについて幹事の間で意見交換を行った。幹事からは、将来はこちらにいくかもしれないが参加費の値上げなどが必要となるので全部一挙に持つて行くのは難しいこと、若手会員の間では報告したものが残らないので次第

に報告する気力がなくなるという声があること、報告論文の電子ファイルを大会期間中にサーバーにアップロードすることも考えられること、大会開催校の負担が増大することなど様々な意見が出された。

### 13. 名誉会員の推薦について

第 123 回(2011 年度秋期)大会にて推薦する名誉会員について意見交換を行った。

以上

## 社会政策学会 第8回幹事会 議事録

(1) 名称: 社会政策学会第8回幹事会

(2) 日時: 2011.10.7(金) 15:00~16:40

(3) 場所: 京都大学・法経済学部東館・1F103 演習室

(4) 出席: 鹿嶋、矢野、石井、田中、笹島、佐藤、関口、埋橋、所、久本

オブザーバー: 林(事務局)

欠席: 武川、小笠原、居神、猪飼、野村、大沢、長井、遠藤、菅沼、禹、佐口、都留、王、布川

(5) 議題:

### 1. 会員の入会について

9名の会員の入会を承認した。

### 2. 選挙結果の報告

選挙管理委員長の大西会員から役員選挙の開票結果について報告があった。

幹事から、今回の選挙で代表幹事経験者が多数当選したことについて、幹事会の新陳代謝を促すために、代表幹事経験者の選挙における扱いを検討する必要があるという意見が出された。また、現在会則では、連続3期を限度として重任を妨げないことが規定されているが、幹事の多選禁止を規定する必要があるのではないかという意見が出された。

### 3. 名誉会員の推挙

久本代表幹事から、今回の臨時総会で神代和欣氏を名誉会員に推挙することについて報告があり、承認された。

### 4. 臨時総会の議案について

事務局から議案について報告があり、一部修正を行った上で承認した。

### 5. 秋季大会企画委員会報告

秋季大会企画委員会副委員長の石井幹事から、10月9日(日)に行われる第123回大会の共通論題報告について資料に基づき説明があった。

共通論題の質疑応答では、紙に質問用紙を書いてもらい提出してもらおう方式を踏襲するが、壇上で質問内容を整理したのち回答するのではなく、質問を書いた参加者にダイレクトに質問してもらおう方式に改めるという報告があった。

フルペーパー400部を印刷して郵送する負担を非会員報告者に負わせるのは厳しいため、企画委員会の経費から支出することが提案された。この提案について幹事の間で意見交換を行い、了承した。

### 6. 第123回大会実行委員会報告

第123回大会実行委員長の久本代表幹事から、大会の準備状況について報告があった。

幹事から、今回の大会は関連領域の他学会と開催日がバッティングしているので、今後同様の問題が起きることがないように調整できないかという問題提起がなされ、学会開催日の調整について継続審議することになった。

また、第 123 回大会では 1 日目に書評分科会、自由論題分科会、テーマ別分科会を実施するが、最大で同時に 9 つのセッションが開催される。秋期大会でも発表が増えているため、春期大会と同じく秋期大会も共通論題を半日に短縮することを考慮する必要があるのではないかと問題提起がなされた。この提起について幹事の間で意見交換を行った。幹事からは、近年は春大会より秋大会のほうが盛況なことがある、私学は土曜日に授業をしているので土曜日に自由論題等を行うのは難しい、プロシーディングスが発刊されるようになれば効率よく各セッションを回ることができるのではないかと、等の意見が出された。共通論題の開催日程を来年以後どうすべきかは、継続審議することになった。

#### 7. 第 124 回大会実行委員会報告

第 124 回大会実行委員長の鹿嶋幹事から大会の準備状況について報告があった。3 学部から 5 名の会員、1 名の非会員により実行委員会を組織すると報告があった。開催日の決定は大学の正式の決定を待たねばならないが、2012 年 5 月 26・27 日を予定しているという報告があった。また、土曜日は授業が行われているので初日に共通論題を実施する予定であると報告があった。

#### 8. 編集委員会報告

編集副委員長の佐藤幹事から学会誌の編集状況について報告があった。

10 月 9 日(日)に実施される共通論題の最後の総括討論が終わったところで、座長、コメンテーターに学会誌への論文執筆をお願いするという報告があった。報告者にはすでに了承してもらっているが、会場で改めて確認を行うという報告があった。

資料に基づき今後の発刊スケジュールについて報告があった。投稿論文は一回発行するごとに 3 本くらいずつ掲載できている状況であり、今後も自由論題・分科会報告のよいものを投稿するように奨励していきたいという報告があった。現在、査読期間が 1 年以上かかる場合があるが、1 年以内に短縮できるように努力しているところであるという報告があった。近年、計量的手法を用いた論文の投稿が増えているが、こうした論文を査読できる人材をリストアップする必要があるという報告があった。

幹事からは、投稿論文の掲載本数が増加しているのは望ましい傾向である、査読者の苦労には頭が下がるという意見があった。また、幹事から、査読期間を 1 年以内に短縮したいという報告があったが、大学院生にとっては長いので、さらにスピーディーに査読が進むように努力して欲しいという要請があった。査読委員を積極的に増やしていくという方針を幹事会として再度確認した。

#### 9. 学会賞選考委員の委嘱について

代表幹事から学会賞選考委員の委嘱を行ったことが報告され、了承された。

#### 10. 学会大会でのプロシーディングス発刊について

2011年7月23日の第7回幹事会でも議論を行ったプロシーディングスの発刊について、事務局と、秋季大会企画委員長の田中幹事から、学会大会におけるプロシーディングスの発刊について提案があった。幹事の間で以下の意見交換を行った結果、2012-2014 年 期幹事会において実務的な面を詰め、プロシーディングス発刊を実現するよう引き継ぐことで合意した。

現在、学会大会での共通論題報告者はフルペーパーを 400 部、テーマ別分科会報告者は 150 部、自由論題報告者は 100 部印刷して、開催校に郵送することになっている。共通論題報告者の場合、秋季大会企画委員会報告でもあったが、非会員であっても印刷費や人件費等で少なく見積もって数万円の負担を強いる状況にある。テーマ別分科会や自由論題報告であっても、常勤の大学教員はともかくとして、非常勤の教員や大学院生の報告者に数千円の出費を負担させるのは問題である。これらの負担は、プロシーディングスを発刊することになれば、報告者はワード文書を送るだけで済ませることが可能になる。これは報告者だけが負担を負うのではなく、参加費を若干値上げすることで、広く参加者全員で負担を負うように改めることに繋がると説明された。

また、若手の会員からは、報告が何らかの冊子に採録されず、フルペーパーのコピーを開催校に置くだけで、業績の形になったという感じがせず、いまひとつ達成感が得られないという声があるという説明がなされた。さらに、費用面について2社で見積もりをとって見たところ、各報告8頁の場合、編集経費を含めて30～40万円程度でプロシーディングスを発刊することが可能であるという説明がなされた。

以上の説明の後、下記の議論をおこなった。まずプロシーディングスをどのくらいの部数、発刊するかという問題がある。この点は事前申し込みを行った参加者には確実に行き渡る部数を発刊する必要があるが、当日申し込みの参加者のなかに少数受け取れない会員が出ても仕方ない程度の部数にすることで一致した。

印刷の品質に問題があり、図表がつぶれることはないかという質問があった。この点は、見積もりをとった業者に関する限り、図表を多用する理科系の学会でも印刷を担当しており、報告があった金額での印刷でも特段問題が発生することはないという説明があった。

報告者として自分の予稿が綴じ込まれた冊子を発行してもらいたいという立場と、参加者として必要のない論文が綴じ込まれた冊子は不要であり、必要なフルペーパーだけあればよいという立場のどちらを優先するのかについて意見交換をおこなった。この点はとくに若手研究者の育成と利害を重視する観点から、各自の予稿に頁をつけて綴じ込む冊子を作るのが望ましいという結論に至った。

プロシーディングスに綴じ込まれた予稿について、社会政策学会や他学会の機関誌に投稿されるさいに既発表の論文と見なされないように、予稿集と分かる名称をプロシーディングスにつける必要があるという意見があり、その方向で名前をつけることで一致した。

また、プロシーディングスを発刊する場合は、大会開催校が行うのではなく、企画委員会の責任で行うことで一致した。この点について、現在大会報告要旨集を開催校が印刷し、郵送しているが、この負担が軽減されるので望ましいという意見があった。なお、プロシーディングスが発刊されるようになった場合、現行の報告要旨集のうち、要旨の紹介は学会ホームページにPDFを掲載し、大会プログラムの骨子、参加手続、会場へのアクセス等の周知はニューズレターに掲載して行うことで一致した。

## 12. 旅費規程の改正について

事務局から旅費規程の支給率変更に関する試算の結果について説明があった。幹事の間で意見交換を行い、往復交通費が 29,167 円未満の場合、支給率を一律 65.715% (現在 52%) とし、29,167 円以上の場合、一律 1 万円 (現在 14,000 円) とすることで合意した。

以上

## 社会政策学会 第9回幹事会 議事録

(1) 名称: 社会政策学会第9回幹事会

(2) 日時: 2011.10.8(土) 11:45~12:15

(3) 場所: 京都大学・法経済学部東館・1F101 演習室

(4) 出席: 鹿嶋、所、矢野、武川、笹島、小笠原、居神、関口、埋橋、遠藤、布川、久本  
オブザーバー: 林(事務局)

欠席: 石井、田中、佐藤、猪飼、野村、大沢、長井、菅沼、禹、佐口、都留、王

(5) 議題:

### 1. 会員の入会・退会について

1名の入会が承認された。また、前回の大会から15名の退会があったことが報告された。

### 2. 春期企画委員会報告

春季大会企画委員長の布川幹事から、資料に基づき第124回大会(2012年5月26・27日を軸に調整中、駒澤大学)の共通論題準備状況について下記のとおり報告があった。共通論題は26日に、午前の部と午後の部の2回行う。午前の部は「福島原発震災と地域再生」(仮題)、午後の部は「震災・災害と社会政策」(仮題)を扱う。2回行うために質疑の時間がやや短くなる可能性がある。10月、11月とこの方向で議論を進めていく予定である。これらの報告について幹事会として了承した。

学会誌編集委員会に対し、報告者のうち1名は研究者ではないので、学会誌に掲載される論文はかならずしも研究者の論文という形にはならないが、了解してもらいたいという要請があり、了承された。

また、非会員の報告者に対し、宿泊費と交通費に加えて、資料準備代を企画委員会の経費から支出したいという提案があった。今回は、震災からの復興・復旧で大変な苦勞がある中での参加ということもあり、特例として2万円を資料準備代として企画委員会活動費から支払うことで幹事会として了承した。なお、現在は企画委員会活動費を春期と秋期まとめて10万円としているが、これでは執行しにくいのではないかという意見があり、2012年度予算から5万円ずつに分割して計上することになった。

### 3. 秋季大会の開催日程の決定について

社会政策関連学会協議会の遠藤幹事から、2011年10月8・9日は社会政策学会と日本社会福祉学会の大会が行われているが、学会大会の開催日程が他学会と重複しないように調整する必要があるという提案があった。日本社会福祉学会の秋季大会は1年前に大会開催の日程が決まっているので、社会政策学会の秋季大会はその日程を避けて大会開催日程を設定することが提案された。この点について幹事の間で意見交換を行い、社会政策学会の秋季大会開催校が日程を決定するさいには、かならず日本社会福祉学会事務局に大会開催日程を確認するよう、申し継ぎを行うことで一致した。

### 4. その他

事務局から電子ジャーナル化について1名の著者から電子化したファイルをネット上に掲載することを拒否する通知があったことが報告された。

また、開票作業に携わったアルバイトの経費を従来大会開催校が負担していたが、今回から選挙管理委員会の経費で負担することが事務局から提案され、了承された。

以上

## 社会政策学会 第 10 回幹事会 議事録

(1) 名称: 社会政策学会第 10 回幹事会

(2) 日時: 2012.2.11(土) 14:00~16:00

(3) 場所: 駒澤大学【深沢キャンパス】講義室 2-34

(4) 出席: 鹿嶋、石井、田中、布川、大沢、佐藤、所、居神、猪飼、禹、武川、矢野、久本  
オブザーバー: 林(事務局)

欠席: 小笠原、菅沼、埋橋、王、関口、笹島、野村、長井、遠藤、都留、佐口

(5) 議題

### 1. 会員の入退会について

入会者 9 名、退会者 4 名。5 年会費未納者 2 名について今年度末までに会費を納入しない場合は、退会処分とすることを確認した。

### 2. 第 123 回大会結果、ならびに第 125 回大会準備について(秋季大会企画委員会)

田中委員長・石井副委員長より説明があった。次回大会は 2012 年 10 月 13・14 日に長野大学にて共通論題は「新しい公共と社会政策」(仮題)で行う予定である。

### 3. 第 123 回大会(秋季)会計報告

久本実行委員長より、本会計は会場費などの影響で若干赤字だったが、別会計で補てんできた旨の報告があり、了承された。

### 4. 第 124 回大会・春季企画委員会報告

布川委員長より、春季大会の進捗状況について報告があった。

報告応募者からのメール不着が 2 件発生したことが報告され、急遽対応を余儀なくされたことについて説明があった。次回以降の大会では、もう少し早い段階で確認するよう申し送ると説明があった。

なお、共通論題については東日本大震災関係であり、一般市民の関心も高いと判断し、特例として共通論題のみ参加の場合は無料で一般市民に公開することが提案され、承認された。

### 5. 第 124 回大会・実行委員会報告

鹿嶋幹事より準備状況について報告があった。

### 6. 編集委員会報告

禹幹事より現在の編集状況について報告があった。

佐藤幹事より投稿状況と査読状況について報告があった。

禹幹事より査読を長期間に放置していた査読専門委員を解任する件について、提案通り了承された。

#### 7.広報委員会報告

猪飼幹事よりHP作成とプロバイダーに関する提案があり、了承された。来年度予算にはHPの設計費用と管理費を計上することになった。

#### 8.国際交流委員会報告

矢野幹事から、2012年6月1日に建国大学で開催される韓国社会政策学会に社会政策学会から派遣する報告者に関する提案があった。韓国社会政策学会から、報告の形式等についての情報を得た後に報告者を決める手続きを行うことになった。また、中国との国際交流について報告があり、意見交換を行った。

#### 9.学会誌の電子化について

事務局から提案があり、提案通り進めることとなった。

#### 10.「東日本大震災に関する特別委員会(仮称)」の設置について

設置について、今後検討することとなった。

#### 11.会員割引の対象について・・・提案通り了承された。

#### 12.日本経済学会連合の補助について・・・提案通り了承された。

#### 13.社会政策関連学会協議会について

2/25に明治大学で行われるシンポジウムについて紹介があった。

#### 14. ニュースレターについて・・・提案通り了承された。

以上

## 社会政策学会 第 11 回幹事会 議事録

(1) 名称: 社会政策学会第 11 回幹事会

(2) 日時: 2012.5.25(金) 14:00~17:30

(3) 場所: 駒沢大学・本部棟・5F5-5 会議室

(4) 出席: 小笠原、鹿嶋、笹島、佐藤、菅沼、田中、都留、久本、布川

オブザーバー: 土田(学会賞選考委員会)、林(事務局)

欠席: 猪飼、居神、石井、禹、埋橋、遠藤、大沢、佐口、関口、武川、所、長井、野村、矢野、王

(5) 議題:

### 1. 入会・退会

17 名の入会希望者について審議を行い、入会を了承した。前回幹事会からの退会者が 27 名いたことが報告された。

また事務局より、郵便物が 3 年間届かない状況が届いている会員は、会費滞納者と同じく退会扱いとすることが提案され、了承された。

### 2. 名誉会員の推挙

久本代表幹事より、菊池光造会員を 2012 年度会員総会において名誉会員に推挙することが提案され、了承された。

### 3. 学会賞の受賞作

学会賞選考委員長の土田会員から、第 18 回学会賞の受賞作品について奨励賞 2 本が発表され、選考経過と選考理由について説明があった。

土田会員より、学術賞の複数回の授賞について、現状では過去の受賞者は対象としないことが慣例となっているが、このことを学会賞表彰規程に明確に規定してはどうかという提案があった。この点に関して審議することを次期幹事会に申し送ることにした。

### 4. 会則の改正について

代表幹事より、新しい幹事会が発足する年度は、その幹事会の準備会において、新代表幹事を中心として学会の予算と活動方針を作成するように会則を改めることが提案された。幹事の間で意見交換を行い、2012 年度会員総会で会則改正を提案することになった。

### 5. 総会議事の審議

代表幹事と事務局より、総会議事・資料の提案があり、原案に修正を加えた上で了承した。

### 6. 秋季大会企画委員会

秋季大会企画委員長の田中幹事より、長野大学を実行委員会として開催する第 125 回大会の準備状況について報告があった。

## 7. 編集委員会報告

編集副委員長の佐藤幹事から学会誌の編集について報告があった。まず、発行スケジュールと投稿論文の審査状況について説明があった。従前の通り、文字数、注の付け方、参考文献の不備等を理由とする投稿の不受理がかわらず多いことが報告され、院生の場合、指導教員の事前指導を促すなど、質の確保に取り組むべきであるという認識が示された。

各専門部会による研究レビューが始まり、第三巻第三号に掲載したことが報告された。研究レビューは専門部会の持ち回りであるが、担当が一巡した後どうするかについて次期編集委員会に検討を行うように申し送ると報告があった。

また、投稿から掲載までの時間短縮を行い、基本的に1年以内とするよう取り組んでいるという報告があった。

## 8. 第124回大会実行委員会報告

第124回大会の開催校実行委員である鹿嶋幹事から、ネットによる大会参加費等の振り込みが増えることにより、従来のATMを用いた場合の通信文に対応する項目がないため、大会開催事務に混乱が生じていることが報告された。この点について幹事の間で意見交換を行い、弁当代を1日目と2日目で若干の差をつけることで通信文を不要とする、ネット経由で振り込む場合はメールによる通知を要求するという案が示された。第125回大会実行委員会には、大会参加費等の徴収における問題について共有し、以上の方法のうち開催校が適切と考える方法をとるように申し送ることになった。

また、名誉会員の大会参加費は免除されているが、この点について周知が十分でないため、参加費を振り込まれる場合があることが報告された。今後は、大会開催について会員に通知する際、名誉会員は大会参加費が免除されていることを、参加費等について説明する箇所に合わせて記載することになった。

## 9. 東日本大震災特別プロジェクト

小笠原幹事から東日本大震災特別プロジェクトについて説明があった。幹事の間で意見交換を行い、2012年5月26日の会員総会で提案し、学会として進めていくためのコンセンサスを得ることになった。

## 10. その他

これから学会として国際交流を強化していくにあたり、学会の名称や代表幹事等の職名の英語表記を検討するよう、次期幹事会に申し送ることになった。

以上

## 社会政策学会 第12回幹事会 議事録

(1) 名称: 社会政策学会第12回幹事会

(2) 日時: 2012.5.26(土) 12:55~13:10

(3) 場所: 駒沢大学・本部棟・5F5-5 会議室

(4) 出席: 猪飼、関口、所、埋橋、久本、佐口、矢野、長井、林、菅沼、田中、笹島

オブザーバー: 林(事務局)

欠席: 居神、石井、禹、遠藤、大沢、武川、野村、王、小笠原、鹿嶋、佐藤、都留、布川

(5) 議題:

### 1. 入会について

2名の入会が承認された。

### 2. 広報委員会報告

広報委員長の猪飼幹事から学会ウェブサイトのサーバ移転が終了したことが報告された。デザインの刷新は次期広報委員会において行うように申し送ることが報告された。

### 3. 国際交流委員会報告

国際交流委員長の矢野幹事から4月の段階で次期委員長に引き継ぎを済ませたことが報告された。

### 4. 日本経済学会連合

日本経済学会連合評議員の佐口幹事から日本経済学会連合での議論について紹介があった。

以上